

中国語における量詞の語用論的考察  
A Pragmatic Analysis of the Quantifier in Chinese

洪 安瀾  
Hong Anlan

**内容提要:** 目前对汉语名量词语法化的研究主要有“个体化”、“范畴化”、“双音化”等的角度,各有独到之处。本文在先行研究的基础上,梳理了历时语言学的研究成果,在比较英、汉、日对译实例的基础上,总结归纳汉语相关表现的着眼点。本研究认为,汉语的量词是区分“感性(sinnlichkeit)”、“悟性(verstand)”两类信息的一种重要语法手段。

**キーワード:** 量詞 対照研究 個体化 感性的 悟性的

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 中国語における数量表現
4. おわりに

1. はじめに

テーブルにある一つのリンゴを描写するには、中国語の表現形式は英語と日本語より豊富である。例1のように、客語の数量表現は少なくとも“一个苹果/一苹果/个苹果/苹果”の4種類がある。そのうち、“桌上有一个苹果/一苹果/个苹果。”は数量を尋ねる文の回答になると同時に、“桌上是一个苹果。”のように種類を尋ねる文の答えにもなる。反対に、“桌上有苹果。”は事物の種類を尋ねる文の答えになるが、数量を尋ねる文の回答にならない。

(1) There is an apple on the table. (作例)

桌上有{(一)个}苹果。(作例)

テーブルにはリンゴがある。(作例)

中国語と違って、英語と日本語は数を強調して報告する場合に限って、例2のように数量表現が必要になるので、数量表現の伴う表現の割合が中国語より低い。

(2) One plain pointed hat (black) for day wear. (H·P)

一顶日间戴的素面尖顶帽（黑色）（《哈》）

普段着の三角帽（黒）一個昼用（『ハ』）

表1：中国語における質問と回答の対応関係

質問	回答	
数量を尋ねる	桌上有 <u>一个苹果/个苹果/一苹果。</u>	非総称的(nongeneric)
種類を尋ねる	桌上有 <u>苹果。</u>	総称的(generic) / 類名・非指示的(nonreferential)

表1で示すように、英語や日本語は種類と数量を区別して扱うが、中国語においては数量表現が非総称的(nongeneric)か、総称的(generic)／類名・非指示的(nonreferential)かを区別する文法手段の一つである。つまり、中国語は数量か、種類かを最も重要な問題としないようである。中国語はいったい何を意識して発話しているのかを考察するには、本論は先行研究を踏まえ、英語・日本語・中国語対訳の言語資料を集め、分析する。

## 2. 先行研究

### 2.1. 量詞の文法化についての諸研究

現代中国語における量詞の文法化について、「個体化」、「範疇化」、「双音化」などの観点が屢々見られる。

量詞の「個体化」機能に賛同する研究が最も多く見られる。大河内康憲（1985）では、中国語の数量詞は類名や総称的なものを特定の個体にまとめあげる働きをしているとし、“一”が量詞と結んだものは広く名詞について、個別の概念を与え、抽象的なものを具体化するために働いていて、名詞をその形で範疇化する側面が強調されると指摘し、「個体化(individualizer)」の観点で中国語の量詞を分析している。その後、沈家煊（1995）では、“有界名詞の本质是它所指事物的个体性和可数性，无界名詞的实质是它所指事物的非个体性和不可数性。”と指摘し、“有界・无界”という概念上の対立は、加算と不可算によって表現すると述べている。さらに、古川裕（2001）では、認知上目立った個体は文法上では数量名構造によって強調するとし、“显著性原則”を提案した。また、橋本永貢子（2014:195）はLangacker（1995:51）の唱える「グランディング(grounding)」機能を利用して、その観点では中国語の量詞(名量詞と動量詞)が「空間的・時間的」な量を表し、それぞれの領域から抽象的な出来事を現実世界に位置付けると指摘している。上記の「グランディング」機能は、名詞が

ものの「インスタンス(instance)」ではなく、「タイプ(type)」を表しているという観点から、名詞句は例えば英語の複数を示す“s”などの文法的手段によって、「例示化(instantiation)」する意味機能である。他にも、木村英樹(2011)では存在文に用いられる数量詞が限界的、もしくは離散的な非連続体としての事物の「輪郭化(profiling)」に大きく貢献しているが、非限界的、非離散的な連続体の事物(例えば「水」など)はその限りではないと指摘している。換言すると、上記の諸研究では具体的、“有界”の名詞の前に量詞が来るとしている。反対に、ゼロ格の名詞が総称的、抽象的、“无界”のものであると考えられている。それらの研究では“上头有一苹果。”など量詞の用いない例をうまく説明できない。

「範疇化」の理論では、効率よくコミュニケーションするために、名詞の前に量詞を用いることによって、何らかの属性を強調することができるとしている。石毓智(2001)では二次元空間及び三次元空間にある実体を修飾するために用いられる量詞を調べ、現代中国語の形状量詞の使い方を分析した。それに基づいて、懂振邦、李玉红(2015)では、量詞を“容器范畴量词”(一盒烟)、“性质形状范畴量词”(一块砖)、“数量范畴量词”(一双鞋)、“空间维度范畴”(一张床)のように分類している。「範疇化」の研究では量詞が名詞のどの側面を強調するのかを問題にしているが、数量詞の伴わない例を説明するには困難がある。

「双音化」の観点では、数詞が単音節である言語(藏緬語)には、量詞の種類が豊富で、広く名詞の前につくと指摘している。李建平、张显成(2016)の調査では、古代中国語の名詞の双音化につれて、“名词+数词”構造が“名词+数词+量词”になり、量詞が大量に生み出され、広く使われるようになったことを明らかにした。「双音化」の観点で、なぜ広く量詞が用いられるのかを説明したものの、量詞の伴わない場合を分析するには不十分である。

## 2.2. “数量名”構造の発生

秦王朝以前の文献には、計量に用いられる単位詞(計量の“尺”、借用の“瓢”、動詞から転用した“束”など)は既に存在している。その後、単位詞は計数に用いられる名詞、量詞(“乱臣十人”の“人”)と文法形式が次第に統一してきた(吴福祥等:2006)。したがって、一部の研究では量詞は単位詞から生成したものと示唆している。しかし、量詞は可算名詞を修飾するために生成した品詞であって(安丰存等:2016)、しかも、量詞の有無(例えば“一人”と“一个人”)は、個体の数量に影響がない(李建平等:2016)。よって、多くの研究は、量詞が個体名詞から生成した品詞としている。

吴雅云(2014)では“数量名”の歴史的構造変化を調べた。それに基づいて、西周から漢王朝までの各時代に新たに出現した構造を表1にまとめる。

表2：先秦時代の“数量名”構造の考察(吴 2014 抜粋)

時代	新構造	例文
西周 時期	名 <sub>1</sub> +数+名 <sub>2</sub>	武王 <u>戎车三百两</u> ， <u>虎贲三百人</u> ，与受战于牧野，作《牧誓》。 彤弓一，彤矢百；卢弓一，卢矢百；马四匹。《今文尚书》
春秋 戦国 時期	名 <sub>1</sub> +数+名 <sub>2</sub> 名 <sub>1</sub> +者+数+名 <sub>2</sub> 数+名 <sub>2</sub> +名 <sub>1</sub> 数+名 <sub>2</sub> +省略	宋人以兵车百乘，文马百駟以贖华元与郑。 孟士选圉人之壮者三百人，以为公期筑室于门外。 君有楚命，亦不使一介行李告于寡君，而即安于楚。 齐侯伐莱，莱人使正舆子賂夙沙卫以索马牛，皆百匹。《左传》 国君七个遣车七乘，大夫五个遣车五乘。《仪礼》
兩漢 時期	名 <sub>1</sub> +数+量 <sup>1)</sup> 数+量+名 <sub>1</sub>	常以岁八赐羊一头，酒二斗。《前汉纪·荀悦》 又买李又一头牛，本券在书篋中。《风俗通义》

吴雅云(2014)の調査結果をもとにして、次のようなことがいえよう。春秋戦国時代までは“数+名<sub>1</sub>”(例えば“二女同居，其志不同。”《周易》)“名<sub>1</sub>+数”(例えば“彤弓一，彤矢百”)の表現が優位に立っていた。当時は“匹”“两”“乘”“人”“介”などがまだ名詞で、前方の“名<sub>1</sub>”と同じ事物を表していて、その重要性を強調しているに過ぎない。前漢・後漢以前に徐々に“名<sub>2</sub>”が“名<sub>1</sub>”の前方に来る表現と“名<sub>1</sub>”を省く表現が現れ、“个”の文法化用法も現れた。その後、漢王朝に“名<sub>2</sub>”の位置に来る語が更に多様になって、物質を表す“名<sub>2</sub>”から徐々に個体の形状を示す量詞(例えば“头/斗”)が生成した。

表3：量詞の使用状況に関する考察(张 2010 により)

序号	名词类别	用量词名词数	不用量词名词数
1	器物类名词	22	21
2	衣物织品类名词	9	5
3	书籍类名词	10	7
4	植物类名词	7	10
5	食物类名词	5	6
6	动物类名词	9	34
7	自然界事物名词	4	17
8	宝物类名词	3	7
9	建筑类名词	2	12
10	其他	2	5
11	身体部位名词	2	28
12	指人名词	0	61
13	武器类名词	0	70
14	抽象事物名词	0	130

<sup>1)</sup> 秦王朝の文献は、年代判断や文献保存上に問題があるため、精密に調査することは難しいが、言語事実上、秦朝に“名<sub>1</sub>+数+名<sub>2</sub>/量”が一部既に出現した(吴雅云 2014)。

张頴(2010)では、漢王朝の量詞の使用状況を調査した。その研究成果を表3のように整理してみよう。漢王朝には“通用量词(枚)、植物量词(本)、动物量词(匹)、功能量词(乘)”が先に現れて、それから専ら人間に使う専用量詞及び事物に使う形状量詞が現れてくる。しかも、ものの数量を報告する場合、人工物(器物、衣類など)、書籍を表す名詞に量詞をつける頻度が高く、人間の製造・創造するものがありがたさを強調している。そして、形成期の量詞には、「人間・非人間」、「有情物・無情物」の使い分けがなく、無情物の形状を表す量詞が現れてくるまでかなりの年月が経った。

漢朝から名詞の「双音化」が始まり、魏晋には「双音化」が定着した。それとともに、全ての語例には、量詞が修飾される名詞句の前に来る(数+量+名)ようになった。隋唐五代から現代まで使用上の変化があるものの、“数量名”構造が定着した。(李建平等:2016)

初統一の秦王朝が短命で滅び、漢王朝が中国統一状態を実質的に確定した正統とされた。その時代には、「文景の治」、「漢武盛世」、「光武中」、「昭宣中興」、「明章の治」と呼ばれる優れた政治が行われ、全盛期を現出させ、製鉄、製陶、紡織などの技術の進歩が遂げ、農業、商業も大いに発展した。同時に、紙の発明により、漢訳仏典や儒教などの典籍が大量に作成された。生産力と文化の発展につれ、数量だけでなく、人工物、書籍をはじめ、物事の名称、属性、種類、形状、機能などを正確に記録する需要が生まれ、名詞の「双音化」と量詞による修飾が必須となり、「名+数+量」の構造が発生・定着したと考えられる。

現代中国語では、通用个体量詞“个”によって修飾される固有名詞(例3)は「親しい人にとっては普通名詞と比較にならない内包豊かな語である。(大河内康憲:1985)」例として、例3の“范喜良”は話し手の意識の中に特定できる人物であり、その名が“范喜良”であることを言っている。さらに、“个”によって普通名詞の本来持つ「社会的・語彙的屬性」(例4)、並びに言語環境による「一時的な屬性」(例5)を喚起することもできる。(杉村博文:2006)。例えば例4の“孩子”は任意の人物ではなく、“说话人心中的概念实体(conceptual entity)”で、“‘孩子’这种事物”(张伯江:2000,杉村博文:2002)である。例5は“这个纸”を“这张纸”に書き換えると、「予定外・異常」の意味合いがなくなり、どこにもあるような普通の紙になる(王惠:1997,杉村博文:2006)。つまり、現代中国語の“个”は知悉しているものを意識しながら、その重要さ、または特別さを強調することが可能である。この点においては古代漢語の“个”と何ら変わらないように見える。

(3) 孟姜女走上前去说:“你们这儿有个范喜良吗?”(大河内康憲:1985)

孟姜女は前に出て「ここには范喜良(という人)がいませんか」と聞きました。(筆者訳)

(4) 小张把个孩子生在火车上了。(杉村博文:2002)

張さんったら、列車内で赤ちゃんを出産したのよ。(筆者訳)

(5) 这个纸, 质量真差! (杉村博文:2006)

この紙、品質が悪いな! (筆者訳)

これまで述べたように、量詞の出現は名詞の「双音化」と深くかかわり、単位詞と合わせて現代中国語の名量詞を構成した。通用個体量詞“个”は知悉しているものの重要性、特別さを強調することができる。それ以前にすでに存在する単位詞は計量量詞(兩)、容器量詞(碗)などとなり、ものの数える単位を表している。後から現れた専用個体量詞(只)、集合量詞(双)、部分量詞(页)、臨時量詞(身)は名詞の機能、類別、形状などを示し、名詞の範疇化、個体化に貢献している。

### 3. 中国語における数量表現

「はじめに」で説明したように、中国語における数量表現は非総称的(nongeneric)か、総称的(generic)/類名・非指示的(nonreferential)かを区別する文法手段の一つである。本論では前者を「感性(sinnlichkeit)的認識」を加工するタイプとし、後者を「悟性(verstand)的認識」を処理するタイプとする。この節では、英語の可算・非可算名詞の分類を参考に、中国語の数量表現を単語・連語・文・談話レベルから分析する。

#### 3.1. 感性的認識

外部の刺激に応じ、感覚器官による直感的な「感性的認識」を伝える場合、最も重要なのは数量をはじめ、容量・形状・機能など測量・限定可能な情報である。中国語では一般的に、名詞(単語・連語レベル)に(数)量詞をつけて、なんらかの範囲<sup>2)</sup>を限定する。

リアルな世界に存在する人間のことを伝えるには、中国語は常に“一名巫师”、“一个儿子”、“个儿子”のように限定し、感性的認識を表している。さらに、通用個体量詞“个”を用いることによって、“儿子”が具体的な人間のように、魔法使いの両親の特別さ(例7)、やんちゃ坊主の意地悪さ(例8)という知悉している特徴も強調されている。

(6) See, there was this wizard who went... bad. As bad as you could go. Worse. Worse than worse.(H·P)

当时有一名巫师，他后来……变坏了。坏透了。坏得不能再坏了。(《哈》)

いいかな、ある魔法使いがおってな、悪の道に走ってしまったわけだ……

悪も悪、とことん悪、悪よりも悪とな。(『ハ』)

<sup>2)</sup> 楊唐峰、張秋杭(2019)では“領屬主賓句(動物園跑了一只老虎。)”“双賓語句(趙先生在上海住了三个夏天。)”に用いられる数量詞は名詞の範囲を限定する方法の一種とみなされ、次の例の“几句难听的话”は客語のように見えながらも、補語と同じ機能を発揮しているとする。よって、出来事にかかわる「感性」情報を補う数量詞を省いた「c」は不自然になる。

a. 张三骂了李四几句。 b. 张三骂了李四几句难听的话。 c. ?张三骂了李四难听的话。

- (7) And they've got this son – I saw him kicking his mother all the way up the street, screaming for sweets. (H·P)

他们还有一个儿子——我看见他在大街上一路用脚踢他母亲，吵着要糖吃。  
(《哈》)

それにこの息子ときたら——母親がこの通りを歩いている時、お菓子が欲しいと泣きわめきながら母親を蹴り続けていましたよ。(『ハ』)

- (8) The Dursleys knew that the Potters had a small son, too, but they had never even seen him. (H·P)

他们知道波特也有个儿子，只是他们从来没有见过。(《哈》)

ポッター家にも小さな男の子がいることを、ダーズリー夫妻は知ってはいたが、ただの一度も会ったことがない。(『ハ』)

次のような離散的な事物の場合、一般名詞は“一辆会飞的摩托车”、“个衣袋”、“一双旧袜子”のように専用个体量詞、通用个体量詞、集合量詞などによって限定し、感性的認識を報告する。

- (9) It had been a good one. There had been a flying motorcycle in it. (H·P)

那是一个好梦。梦里有一辆会飞的摩托车。(《哈》)

いい夢だったのに……。空飛ぶオートバイが出てきたっけ。(『ハ』)

- (10) "Don' mind if it wriggles a bit, I think I still got a couple o' dormice in one o' the pockets." (H·P)

“要是有什么东西乱动，没关系，我想，有个衣袋里好像还装着两只睡鼠。”  
(《哈》)

「それを掛けて寝るといい。ちいとばかりモゴモゴ動いても気にするなよ。どっかのポケットにヤマネが二、三匹入っているはずだ」(『ハ』)

- (11) .....last year, the Dursleys had given him a coat hanger and a pair of Uncle Vernon's old socks. (H·P)

去年德思礼夫妇送给他一个挂上衣的挂衣钩和弗农姨父的一双旧袜子。(《哈》)  
去年のダーズリー一家からのプレゼントは、コートを掛けるハンガーとおじさんのお古の靴下だった。(『ハ』)

連続的な物質名詞“灰黑色的水”及び抽象名詞“希望”、“借口”は借用数量詞、通用个体量詞などによって限定し、感性的認識を報告する。中国語の場所名詞は一般名詞+方位詞(例10の“衣袋里”)、物質名詞+方位詞(例12の“水里”)、抽象名詞+方位詞などから構成している。場所名詞句に関しては、稿を改めて述べたい。

- (12) The tub was full of what looked like dirty rags swimming in gray water. (H·P)

他去看了一眼，发现一盆灰黑色的水里泡着像破抹布似的东西。(《哈》)

近づいてのぞくと、灰色の液体に汚らしいボロ布がプカプカ浮いていた。  
(『ハ』)

- (13) This was why Harry spent as much time as possible out of the house, wandering around and thinking about the end of the holidays, where he could see a tiny ray of hope. (H·P)

这就是哈利尽量长时间待在外边的原因。他四处游逛，盘算着假期的结束，由此获得对生活的一线希望。（《哈》）

そういうわけで、ハリーは、なるべく家の外でぶらぶらして過ごすことにした。夏休みさえ終われば、とハリーは思った。それだけがわずかな希望の光だった。（『ハ』）

- (14) This boy was another good reason for keeping the Potters away; they didn't want Dudley mixing with a child like that. (H·P)

这孩子也是他们不与波特夫妇来往的一个很好的借口，他们不愿让达力跟这种孩子厮混。（《哈》）

そんな子と、うちのダドリーが関わり合いになるなんて……それもポッター一家を遠ざけている理由の一つだった。（『ハ』）

世の中に唯一存在するものを表す固有名詞“麦格教授”及び直示(deictic)・照応(anaphoric)に用いられる代名詞“您”、“他”はもとより特定(specific)できる人物である。集合名詞（或いは名詞フレーズ）の“观众”、“全校师生”はすべての個体を意味するので、数量を限定する必要がない。よって、これらの名詞の前に量詞は必要なく、話者の感性的認識を表している。（ただし“夫婦”のようなメンバが限られた集団では“一对夫妇”のように限定する必要がある。）

- (15) "Fancy seeing you here, Professor McGonagall." (H·P)

“真没想到会在这里见到您，麦格教授。”（《哈》）

「マクゴナガル先生、こんなところで奇遇じゃのう」（『ハ』）

- (16) Hundreds of seats were raised in stands around the field so that the spectators were high enough to see what was going on.(H·P)

几百张椅子高高地排放在周围的看台上，使观众都能看见球场上的情况。（《哈》）

競技場のグラウンド周りには、何百という座席が高々とせり上げられていて、観客が高いところから観戦できるようになっていた。（『ハ』）

- (17) Harry's heart gave a horrible jolt. A test? In front of the whole school? (H·P)

哈利心里猛地一颤。做测验？在全校师生面前？（《哈》）

ハリーはドキドキしてきた。試験？全校生徒がいる前で？（『ハ』）

連語・文レベルでは「社会関係」や「全体と唯一且つ不可分な部分」など緊密な領属関係にある“他们-儿子（例18）”、“皮尔-脸（例19）”は、限定しやすい事物である。よって、“儿子”、“脸”が指定されるものであり、話者の感性的認識である。（杨唐峰等:2019）



- (18) Their son – he'd be about Dudley's age now, wouldn't he? (H·P)

他們的兒子——他現在該有達力這麼大了吧？（《哈》）

あそこの息子だが……たしかうちのダドリーと同じくらいの年じゃなかったかね？（『ハ』）

- (19) Piers was a scrawny boy with a face like a rat. (H·P)

皮尔瘦骨嶙峋，脸像老鼠脸。（《哈》）

ねずみ顔のガリガリにやせた子だ。（『ハ』）

更に、文レベル及び談話レベル（複文、段落）では言語環境によって、感性的認識が報告される場合もある。主語が普通旧情報で、その多くは非総称的な、しかも特定できる事物である（例1から3の“桌(上)”“上头”“孟姜女”が特定な事物である）。そのほかに、既に一度現れた事物（例20の“摩托车”、“兼语句”の客語（例21、22の“人”、“猫头鹰”）、進行中の動作対象（例23の“熏咸肉”）なども限定可能な事物である。（動作にはアスペクト助詞によって限定する。）このような場合は量詞がなくでも感性的認識が十分に伝えられる。

- (20) "At last. And where did you get that motorcycle?" "Borrowed it, Professor Dumbledore, sit," said the giant, climbing carefully off the motorcycle as he spoke. (H·P)

“你总算来了。这辆摩托车你是从哪里弄来的？”“借来的，邓布利多教授，”巨人一边小心翼翼地跨下摩托车，一边说，……（《哈》）

「やっと来たね。いったいどこからオートバイを手に入れたね？」「借りたんです。ダンブルドア先生様」大男はスーツと注意深く車から降りた。（『ハ』）

- (21) Then he looked quickly around to see if anyone was watching. They weren't. (H·P)

他即刻飞快地四下里扫了一眼，看是否有人在注意他们。没有人注意。（《哈》）

あわてて誰か見ていないかと、周りを見まわした。大丈夫だ。（『ハ』）

- (22) ……they pointed and gazed open-mouthed as owl after owl sped overhead. (H·P)

他们目瞪口呆，指指点点，盯着猫头鹰一只接一只从头顶上掠过。（《哈》）

ふくろうが次から次へと飛んで行くのを指さしては、いったいあれは何だと口をあぐりあけて見つめていたのだ。（『ハ』）

- (23) Well, get a move on, I want you to look after the bacon. (H·P)

快了，那就赶紧，我要你看着熏咸肉。（《哈》）

さあ、支度をおし。ベーコンの具合を見ておくれ。（『ハ』）

なお、ものの数（例11～13の“一双袜子”、“一盆灰黑色的水(里)”、“一线希望”）、任意(nonspecific)の一つ（例14の“一个很好的借口”）、事物全体（例えば“一头白发”）、毎回を表す場合（例えば“一天三次”）に限って、“一”などの数詞が必須であり。そうでない場合、“量詞+名词(句)”の構造のみで容量・形状・機能・類別などを報告し、感性的認識を伝えることが可能である。

### 3.2. 悟性的認識

個人の経験・知識が及ぶあらゆる分野の事柄について反省的な「悟性的認識」を伝える場合、種類・関係・身分・職種・地位などカテゴリーを指定する必要がある。現代中国語は単語・連語レベルでは基本的ゼロ格名詞(句)によって悟性的認識を伝える。

次の例文では“工作中遇到的人”、“开会(时遇到的人)”、“银行(里遇到的人)”のように異なる職場にいる人間のことを表している(“开会(时的事)”、“银行(里的事)”)のように理解することも可能)。“哈利”は固有名詞であるが、「ハリーのこと」のように、その人に関する事柄として捉えられる。“工作中遇到的人、哈利、开会、哈利、银行、哈利”はいずれもリアルな個体を指しているわけではなく、“几个话题”の種類を伝えて、悟性的認識である。

(24) He liked to complain about things: people at work, Harry, the council, Harry, the bank, and Harry were just a few of his favorite subjects. (H·P)

他总喜欢怨天尤人，工作中遇到的人、哈利、开会、哈利、银行、哈利，这是他喜欢抱怨的少数几个话题。(《哈》)

何しろ不平を言うのが好きなのだ。会社の人間のこと、ハリーのこと、市議会のこと、ハリーのこと、銀行のこと、ハリーのこと、ざっとこんなところがお気に入りのネタだった。(『ハ』)

次の例では“找袜子”という動作によって、“找到一双袜子”という結果をもたらしたということを表している。下線部の一般名詞の“袜子”はリアルな事物ではなく、類名が総称的な意味である。即ち、下線部の“袜子”は悟性的認識であり、探すものの種類を示している。これに対するのが感性的認識の“一双袜子”であり、見つけた靴下のことである。

(25) Harry got slowly out of bed and started looking for socks. He found a pair under his bed and, after pulling a spider off one of them, put them on. (H·P)

哈利慢慢吞吞地从床上爬起来，开始找袜子。他从床底下找到一双袜子，从其中一只袜子上抓下一只蜘蛛，然后把袜子穿上。(《哈》)

ハリーはのろのろと起き上がり、靴下を探した。ベッドの下で見つけた靴下の片方にはりついてたクモを引きはがしてから、ハリーは靴下をはいた。(『ハ』)

物質名詞の“钱”及び抽象名詞“危险的想法”、“愤怒”はやはりものの種類を示して、話者が悟性的認識を伝えている。

(26) "Yeah, you'll be needin' one," said Hagrid, "but we gotta get yer money first." (H·P)

“哦，你需要买一只，”海格说，“不过我们先得去取钱。”(《哈》)

「一つ買わにゃならんが、まずは金を取ってこんとな」とハグリッドが言った。(『ハ』)

(27) .....they seemed to think he might get dangerous ideas. (H·P)

他们认为他总有可能产生危险的想法。(《哈》)

ハリーがそんな話をすると、まるで危険なことを考えているとでも思っているようだった。(『ハ』)

(28) .....when Hagrid spoke, his every syllable trembled with rage. (H·P)

海格说话时，他说的每一个字都因愤怒而颤抖。(《哈》)

ハグリッドの言葉は、一言ひとこと怒りでワナワナと震えていた。(『ハ』)

固有名詞、代名詞は基本的にリアルな事物を表しているが、例 24 “哈利” のような場合も考えられる。集合名詞の場合では、次の例の“家长”が総称的な意味である。ここの“哈利”と“家长”は具体的な人間を指しているわけではなく、その人に関する事柄の種類や保護者という人間関係であり、話者の悟性的認識である。

(29) PARENTS ARE REMINDED THAT FIRST YEARS ARE NOT ALLOWED THEIR OWN BROOMSTICKS (H·P)

在此特别提请家长注意，一年级新生不准自带飞天扫帚。(《哈》)

1年生は個人用箒の持参は許されていないことを、保護者にご確認ください。(『ハ』)

文・談話レベルでは、数量詞によって修飾される名詞句は話者の悟性的認識を報告する場合もある。その例として、次の例のように“NP<sub>1</sub>是一个NP<sub>2</sub>”の客語がリアルな事物ではなく、一種のカテゴリーと理解してよいであろう。

(30) "Harry – yet a wizard." ..... "-- a what?" gasped Harry. (H·P)

“哈利，你是一名巫师。”……“我是什么？”哈利喘着气说。(《哈》)

…ハリー——おまえは魔法使いだ」 …「僕が何だって？」ハリーは息をのんだ。(『ハ』)

(31) .....but Quirrell's lessons turned out to be a bit of a joke. (H·P)

可奇洛教授这一课几乎成了一场笑话。(《哈》)

クィレルの授業は肩すかしだった(『ハ』)

(32) For a famous place, it was very dark and shabby. (H·P)

作为一个出名的地方，这里实在是太黑太脏了。(《哈》)

有名なところにしては、暗くてみすぼらしい。(『ハ』)

“NP<sub>1</sub>是一个NP<sub>2</sub>”の客語が「身分、地位、外貌、婚姻、属性など」の情報を伝えて、主語の同格と見なすことができる(王灿龙:2019)ので、例 30 “一名巫师”は職業や身分として捉えられる。ほかにも述語が“成/作为”などの場合でも、同じようなことが言えよう。例 31 の“一场笑话”、例 32 の“一个出名的地方”は類名・非指示的な意味を表している。

ほかにも、次の例のように、主語の“一个人”は「例外なくすべての人間」を意味する総称的な意味であるので、数量詞を伴う“一个人”は悟性的な認識である。

(33) 一个人啊，可要讲良心。(徐烈炯、刘丹青 2010:143)

(一人)人間としては、良心を重要視しなければならない。(筆者訳)

### 3.3. 数詞と量詞の省略

《中国传统相声大全(共四卷)》から、次の四例を集めた。すべては会話文である。

(34) 葡萄可贵哪，苹果贱，你来二斤苹果吧！(《中》)

葡萄は高いよ、リンゴのほうが安い、1キロ買いきましょうよ。(筆者訳)

(35) 到二门那有一个马鞍子，上头搁一个苹果，轿子打上头一过，这叫平平安安。(《中》)

中門のところに馬の鞍をおき、鞍の上にリンゴが一個おく。輿に乗ってその上を通るのは、無病息災を祈る行事という。(筆者訳)

(36) 是啊……你口干舌燥吃个苹果为什么？(《中》)

そうだね…喉が渴いたとき、なぜリンゴを食べるの？(筆者訳)

(37) ……脚不沾尘，迈马鞍子，上头有一苹果。(《中》)

…足は土に触れず、馬の鞍をまたげた。鞍の上にはリンゴが一個ある。(筆者訳)

例 34 は総称的な意味を表しているので、数量表現による限定が必要としない。例 35 ではリアルなリンゴ表しているので、“一个”によって、数量を表している。例 36、37 では“个苹果”、“一苹果”のように、前者がリンゴの「みずみずしさ」を強調して、数量を問題としないが、後者はリンゴの数量を焦点に伝えている。数詞、量詞が一方省略されたのは、現代中国語の“双音化”に背く表現なので、会話文に見られるが、地の文に適した表現ではない。また、数詞によって修飾され、名詞が一音節の場合は四字熟語(“一心一意”、“一尘不染”)に大量に存在している。

### 3.4. 三言語の注目点

前述のように、中国語は話者の直観的な感性的認識、或いは反省的な悟性的認識を数量表現、言語環境などの手段によって伝えて、話者の「経験談」である。池上嘉彦(2011)、伊藤創(2016)の指摘のように、英語は客観的な事態把握(objective construal)に基づいた描写を好み、自らの身をその事態の外に置くというスタンスで事態を捉えるのに対して、日本語は主観的な事態把握(subjective construal)に基づいた描写を好み、自らの身をその事態の中に置くというスタンスによる事態把握をする。

例 2 をもう一度見てみよう。英語と日本語は数を強調して報告する場合に限って、“one”「一個」が必要になるので、事物の「数量」と「種類」を区別して発話する。そして例 11 のように、英語は“socks”が通例複数形で、物理的な特徴に注目して、如実に表している。日本語では「靴下 2 枚で 1 足」という当たり前のことをわざと言わない必要がないか、「靴下」の数量や様子を描写していないが、「人が使って古くなったもの、おさがり」という意味合いの込められた「お古」という言葉お用いて、英語の“old”、中国語の“旧”より、人間のかかわりやもたらされた影響が強調されて

いるようである。

(2)' One plain pointed hat (black) for day wear. (H・P)

一顶日间戴的素面尖顶帽（黑色）（《哈》）

普段着の三角帽（黒）一個昼用（『ハ』）

(11)' .....last year, the Dursleys had given him a coat hanger and a pair of Uncle Vernon's old socks. (H・P)

去年德思礼夫妇送给他一个挂上衣的挂衣钩和弗农姨父的一双旧袜子。（《哈》）

去年のダーズリー一家からのプレゼントは、コートを掛けるハンガーとおじさんのお古の靴下だった。（『ハ』）

英語や日本語の注目点を分析するには、ここだけの分析はなお不十分であるが、中国語と発話の注目点が異なるということは言えよう。

#### 4. おわりに

本稿は中国語の量詞の語用論的、歴史的研究をふまえ、英語・中国語・日本語の実例を集め、比較分析を行った。三言語はそれぞれ異なる側面に重点を置いて発話する。英語や日本語は「数量」と「種類」を区別して文を構成させ、このうち、英語は事物の属性を如実に描写するのに対して、日本語は物事が人間のかかわりやもたらされた影響を重んじて発話する。中国語では直観的な感性的認識か、反省的な悟性的認識かを焦点に、単語レベルでは(数)量詞を用いて二つのパターンを分けて伝えているが、ただし、文・談話レベルの言語環境の制約も無視できない。

#### 言語資料

略称 資料/出版社

中 《中国传统相声大全（共四卷）》 冯不异、刘英男 主编 文化艺术出版社

H・P *Harry Potter and the Sorcerer's Stone* J.K.ROWLING Scholastic

哈 《哈利·波特与魔法石》 苏农 译 人民文学出版社

ハ 『ハリーポッターと賢者の石』 松岡佑子 訳 静山社

#### 参考文献

大河内康憲 (1985) 「量詞の個体化機能」『中国語学』第 232 号:1-13

池上嘉彦 (2011) 「日本語話者における〈好まれる言い回し〉としての〈主観的把握〉」

『人工知能学会誌』26 卷 4 号:317-322

伊藤創 (2016) 「日本語・中国語・英語母語話者における事態参与者焦点化の決定要因の差異」『研究紀要』17 号:11-22

- 橋本永貢子 (2014)『中国語量詞の機能と意味：文法化の観点から』白帝社:193-194
- 木村英樹(2011)「“有”構文の諸相および「時空間存在文」の特徴」『東京大学中国語文学研究室紀要』第14号:89-117
- 安丰存、吴宇偲、程工 (2016)〈汉语量词产生及其功能演变过程的句法分析〉《解放军外国语学院学报》第39期:1-10
- 懂振邦、李玉红 (2015)〈汉语量词之管见〉《学术探索》第9期:134-137
- 古川裕 (2001)〈外界事物的“显著性”与句中名词的“有标性”：出现，存在，消失与有界，无界〉《当代语言学》4期:264-274
- 王灿龙 (2019)〈句子中的降级说明成分“一个NP”的语用功能〉《语言教学与研究》第2期:49-60
- 李建平、张显成 (2016)〈汉语量词语法化动因研究〉《西南大学学报(社会科学版)》第5期:148-159
- 杉村博文 (2002)〈论现代汉语“把”字句：“把”的宾语带量词“个”〉《世界汉语教学》第1期:18-27
- (2006)〈量词“个”的文化属性激活功能和语义的动态理解〉《世界汉语教学》第3期:17-23
- 沈家煊 (1995)〈“有界”与“无界”〉《中国语文》第5期:367-380
- 石毓智 (2001)〈自然数“1”语法化 为有定性标记的认知基础〉《民族语文》第1期:10-19
- 王惠 (1997)〈从及物性系统看现代汉语的句式〉《语言学论丛》第19辑:193-252
- 吴福祥、冯胜利、黄正德 (2006)〈汉语“数+量+名”格式的来源〉《中国语文》第5期:387-400
- 吴雅云 (2014)〈汉语个体量词“数+量+名”结构的历时形成过程〉《汉语学报》第03期
- 徐烈炯、刘丹青 (2010)〈话题的结构与功能(修订版)〉上海教育出版社:139-155
- 杨唐峰、张秋杭 (2019)〈从认知语言学视角看领属关系对领属宾句的制约〉《解放军外国语学院学报》2019年02期
- 张伯江 (2000)〈论“把”字句的句式语义〉《语言研究》01期:28-40
- 张頔 (2010)〈发展初期的汉语名量词特点：汉代量词研究〉《汉语史学报》第2期:120-130
- Langacker,R.W(1995) *Possession and Possessive Constructions*,John R. Taylor and Robert E.MacLaury(eds.),Language and the Cognitive of the World.Berlin and New York:Mouton de Gruyter:51